# ５［随筆］『ヘタウマ文化論』

　いささか強引で［　　Ａ　　］の感じがするまとめ方ですが、日本文化の流れの中には、随所に①こういう様式が見られることは確かです。

　私がいろいろな意味で影響を受け、また教えられた先生（劇作家・芸術院会員）から、あるときこう言われたことがありました。「このあいだの絵は〝破風〟でいきましたね」と。

　「破風？ どういうことですか？」

　「わざと乱暴に、ヘタに見せる画風のことですよ。よく見ることがあるでしょう。禅寺の玄関のなどに、〝無〟とか〝空〟とか、画面からハミ出さんばかりの勢いで書かれた書が。ああいう、ワザと破調で、画面の中で暴れている書き方。絵の方にも同じような、必要以上にへタに見せるような流れがあるのですよ。例えば、の絵と文字なんかがそうですね。あとは、。あの人は視力が弱いので［　　Ｂ　　］に画面からハミ出たりしてますが、あれは半分は［　　Ｃ　　］なものでしょう。私の好きな片岡さんの〝面構え〟シリーズにもそれを感じるし、さんの、「街道をゆく」のさしえにもそういったａケハイを感じますね」

　ｂハクシキの飯沢先生が挙げた画家の作風は、さいわい私も知っていたので、ナルホドと胸に落ちた。

　「その、破風という画法には、何か画家の意図とか計算があるんですか？」

　「私が学生だった時代には〝弊衣破帽〟といって、きたならしく、オンボロを身にまとうのが、ひとつのダンディズムだったことがありました。日本人は、片一方ではに、を極めたものを尊ぶ美学がある一方で、正反対に、乱暴に、簡潔に、未完成に表現することをしとする美学も共存しているんですね。これは世界中でも珍しい現象で、外国の伝統的美術史の中ではちょっと見当たりません」

　わかりやすい解説を聞きながら、私は自己流にｃ咀嚼してこう思った。

　「そうか、日本人の文化観の中にはヘタウマを受容する感覚が昔からあったのだ。岡本太郎の〝ウマくあってはならない〟の宣言も、そう考えると別に太郎の発見でもないし、いま現在も大衆にｄカンゲイされている相田みつをの言葉と書も②そこに根ざしているのだ。相田みつをの文字が、あれが、普通に言うｅタッピツだったら、あれほどのポピュラリティーを持たなかっただろう」

　そう考えると、いろいろなことが氷解しはじめた。の〝日本人共通のノスタルジー〟を見事に描き出した絵。山下の〝精根をこめた貼り絵〟。③彼らの、一所懸命で愚直な作品群にふれたとき、日本人は素直に心の胸襟を開いてしまう。

　この場合、「④ヘタは善良なるもの」というツボを圧されるからだろう（谷内も、山下も、私は大好きです）。

　「ちぢみ」「慎み」「引き」と、日本文化の特質についてふれて来ましたが、最後に「へタさ」という括りを見つけました。この書にとってこれは大きなポイントです。

●語注

武者小路実篤＝小説家。代表作に、『友情』『愛と死』がある。

棟方志功＝版（板）画家。

片岡球子・須田剋太＝洋画家。

司馬遼太郎＝小説家。代表作に、『竜馬がゆく』『燃えよ剣』など。

ダンディズム＝男性のおしゃれ。に徹する態度。

相田みつを＝詩人・書家。

ポピュラリティー＝世に広く知られていること。人気。

谷内六郎・山下清＝画家。

問１　二重傍線部ａ～ｅの漢字は読みを記し、カタカナは漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　空欄Ａには、「ものごとを自分の都合のいいようにいったりしたりすること」という意味の四字熟語が入る。最も適当なものを次から選べ。6点

ア　大義名分　　イ　岡目八目　　ウ　厚顔無恥

エ　我田引水　　オ　自画自賛

〔　　　〕

問３　空欄Ｂ・Ｃに入る語句として最も適当なものをそれぞれ次から選べ。3点×2

ア　絶対的　　イ　逆説的　　ウ　意図的

エ　必然的　　オ　合理的

Ｂ〔　　　〕　Ｃ〔　　　〕

問４　傍線部①とあるが、どのような様式だといえるのか。本文中から「様式」につながるように一五字以内で抜き出せ。 7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕様式

問５　傍線部②の指しているものを本文中から一五字以内で抜き出せ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　傍線部③とはどのような作品であると考えられるか。最も適当なものを次から選べ。7点

ア　自分の命を削るがごとく必死になって描きたいものを描いた作品。

イ　日本人の誰もが持つ心を描く上で、技術も芸術的な完成度も高い作品。

ウ　本当は上手に書ける技術があるのに、ワザとヘタに作った作品。

エ　表面的なうまさや技巧に走らず、心を込め手間暇かけて表現した作品。

オ　けっしてウマくはないが、自分の流儀を守り続けて描いた作品。

〔　　　〕

問７　傍線部④と同じ考え方を述べている箇所を本文中から二〇字以内で抜き出せ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問１　ａ気配　ｂ博識　ｃそしゃく　ｄ歓迎　ｅ達筆

問２　エ

問３　Ｂ＝エ　Ｃ＝ウ

問４　わざと乱暴に、ヘタに見せる〔様式〕（13字）

　　（必要以上にヘタに見せるような〔様式〕（14字）でも可。）

問５　ヘタウマを受容する感覚（11字）

問６　エ

問７　未完成に表現することを佳しとする美学（18字）

■覚えておきたい語句

□13　　博識……………………物事を広く知っていること。物知り。〔類〕博学

□14　　意図……………………考えていること。〔類〕企画・思惑

□15　　弊衣破帽………………ぼろぼろの衣服と破れた帽子。

□19　　咀嚼……………………物事や文章などの意味をよく考えて理解すること。

□24　　氷解……………………疑問が解けること。

□25　　愚直……………………正直すぎて、気の利かないこと。

□26　　胸襟を開く……………心の中の思いを打ち明けること。

□問２　大義名分………………行動の理由づけとしてだれもが認める根拠。

□問２　岡目八目…………当事者より第三者のほうが、物事を冷静に正しく判断できるということ。

□問２　厚顔無恥………………あつかましく、恥知らずなさま。

□問２　我田引水………………物事を自分の都合の良いように考えたり、進めたりすること。

□問２　自画自賛………………自分で自分のことをほめること。手前味噌。

〔要　約〕

前半…飯沢匡のことば

後半…筆者の解釈と発見

それぞれの考えをつなぎ、まとめよう。

　　　　　↓

日本には、昔からわざと乱暴に、ヘタに見せる破風という画風がある。それは、日本人の文化観の中にヘタウマを受容する感覚があったからだ。一所懸命で愚直な作品に、日本人は素直に感動するのである。（93字）

〈筆者＆出典〉山藤章二（やまふじ・しょうじ）一九三七年（昭和12）東京生まれ。似顔絵作家、風刺漫画家、イラストレーター。武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）卒業。代表作として『世相あぶり出し』『山藤章二のブラック・アングル』などがある。講談社出版文化賞、文藝春秋漫画賞、菊池寛賞、スポニチ文化芸術大賞などを受賞。本文は、『ヘタウマ文化論』（岩波新書、二〇一三年）より。

【読みのセオリー】

★「言い換え」を読み取る

　説明的な文章においては、筆者が伝えたいことを読者に説得するために、いろいろ言い換えて説明をすることが多い。言い換えられるということは、それだけ大切だということでもあるので、しっかり読み取ろう。

■読みのセオリー［実践］「言い換え」を読み取る

問３　日本文化の流れの中には、随所に①こういう様式が見られる。

飯沢匡「破風」

　　　　＝

屛風の書［１　　　　　　　画風］

絵にも　［２　　　　　　　流れ］

日本人の二つの美学

（１）小綺麗に、巧緻を極めたものを尊ぶ美学

（２）［３　　　　　　　　ことを佳しとする美学］

筆者の考え

日本人の文化観の中にはヘタウマを受容する感覚が昔からあったのだ。

〔解答〕　１わざと乱暴に、ヘタに見せる　２必要以上にヘタに見せるような　３乱暴に、簡潔に、未完成に表現する

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問　13行目ア「胸に落ちた」、24行目イ「氷解」の本文における意味をそれぞれ簡潔に答えよ。

［答］　ア＝納得する　　イ＝疑問が解けること

＊新問

問　24行目「そう考えると」とはどういうことか。解答欄の「と考えること」につながるように本文中から三〇字以内で抜き出せ。

［答］　日本人の文化観の中にはヘタウマを受容する感覚が昔からあった〔と考えること。〕（29字）